

平成13年度第1回愛知県周産期医療協議会  
議 事 要 録

日 時：平成13年6月1日 午後3時から午後5時まで

場 所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：浅井委員、有吉委員、石田（昭）委員、石田（時）委員、石塚委員、一木委員、岡田委員、梶浦委員、  
加納委員、小山委員（代理 河井）、長嶋委員、長屋委員、早川委員、判治委員（代理 福田）、  
松澤委員、森川委員、

欠席者：安藤委員、戸苅委員、奈倉委員、森田委員、

事務局：愛知県健康福祉部児童家庭課長、愛知県健康福祉部児童家庭課主幹（母子保健グループ）  
名古屋市健康福祉局健康部健康増進課長（代理）  
名古屋第一赤十字病院第二産婦人科部長、名古屋第一赤十字病院第二小児科部長

司会者：名古屋第一赤十字病院第二産婦人科部長

議 長：加納会長

1. 長嶋技監あいさつ
2. 加納会長あいさつ
3. 新任委員あいさつ（浅井委員、石田（昭）委員、石塚委員、一木委員、早川委員）
4. 新事務局あいさつ
5. 議事

（1）平成13年度愛知県周産期医療情報システムについて

< 地域周産期母子医療センターの追加作業 >

- \* 岡崎市民病院、海南病院、公立陶生病院に端末設置。
- \* 応需情報等の入力を可能にする。（地域母子医療センター業務を可能にする）
- \* 2次医療圏を指定して検索する周産期医療機関一覧表を修正。
- \* 平成13年6月18日の週間にシステムを一時停止して修正作業を行います。
- \* 平成13年6月25日の週間に端末設置、操作説明を行います。
- \* 3施設のホームページ内容の検討をお願いします。

< ホームページの項目追加作業 >

- \* 「健康日本21あいち計画」本冊（94ページ）概要版（22ページ）を愛知県周産期のホームページに追加します。
- \* 6月までには入力作業を終了し、7月1日には公開出来るようにしたいと考えています。

< 愛知県周産期医療情報システム登録機関状況 >

- \* 別紙のように現在対象施設274施設中パスワード発行機関93施設で、うち9施設が医療機関一覧表に掲載されていません。
- \* 医療機関一覧表では、115施設を検索する事が出来ますが、うち31施設はパスワードを必要としておりません。

< 専門相談報告状況 >

- \* 平成12年度の報告状況は別紙のとおりです。
- \* 入力にはそれ程時間もかかりませんので、入力されていない施設はデータ入力にご協力をお願いします。
- \* 総合・地域周産期センターの毎月のデータを集計し役立てることを、協議会の1テーマと考えておりますので、データ入力をお願いします。

< 機器の故障等の連絡先 >

- \* 故障、ホームページの追加相談等ありましたら、別紙連絡先にご相談下さい。

(2) 平成13年度愛知県周産期医療専門相談事業の事業計画について

- \* 平成12年度は、総合・地域周産期母子医療センターにて持ち回りで実施しましたが、本年度も新参加3施設を加えて、総合・地域周産期母子医療センターにて持ち回りで実施したいと考えております。
- \* 各地域周産期母子医療センターで内容を検討し実施して下さい。
- \* 協議会の専門相談事業単独での開催に限定しませんので、他の勉強会と組み合わせて開催して頂いても結構です。
- \* 地域の開業医、助産婦、保健婦、その他の医療従事者を対象にした勉強会として開催して下さい。
- \* 開催日は、他地域母子医療センターと重複しても結構です。
- \* 各施設は、開催内容、日程等決定しましたら、事務局までご連絡下さい。
- \* 終了後必ず事務局に開催報告をお願いします。

(3) 平成13年度愛知県周産期医療調査・研究事業の事業計画について

- \* 毎年テーマを決め行って来ましたが、本年も2テーマ程で実施したい。
- \* 事務局案として5案提案しましたが、他に提案有りましたらお願いします。
- \* 案5「愛知県下の胎児・新生児の先天性心疾患の実態調査」は、昨年まで2年間継続して調査・研究して来たテーマです。
- \* 平成13年11月から「あいち小児保健医療総合センター」が開設されますので、案5のテーマを継続して調査・研究して頂いては如何でしょうか。
- \* 平成12年度の継続で予後調査は行って行けると思います。
- \* 案1「愛知県下の脳性麻痺児の実態調査とその周産期異常の調査」は、最近の脳性麻痺は先天性の障害児が多く、分娩による障害児は少なくなっていることから、調査・研究しては如何かと考えました。
- \* 障害者手帳・療育手帳受給者からの、受給者数についてのデータを愛知県より提供することは出来るが、個人データに関することは提供出来ない。
- \* 脳性麻痺の患者団体も現時点では見当たらない。
- \* 案2「愛知県下のハイリスク新生児（NICU収容児）の退院後の地域での支援体制（保健婦活動）の実態調査」は、問題のある新生児のNICU退院後の患者の追跡調査です。
- \* 長嶋委員を中心として、愛知県下のNICUで扱った問題児のフォローアップと子供たちをケアする保健婦活動について調査する。
- \* 長嶋委員を主任研究者とし、名古屋第一赤十字病院の石川先生を共同研究者として、案2のテーマについて調査・研究を行ってもらう事をお願いします。
- \* 案2と案5を本年度の調査・研究テーマに決定します。
- \* 案1で、脳性麻痺の原因について調査するのであれば、愛知県下の数値にこだわらなければ、病院のカルテから出来るのではないかと。
- \* 愛知県下の医療施設で調査を実施すれば可能ではないかと。
- \* 実態調査ではなく脳性麻痺がある身体障害者手帳1級・2級を受給している子供についての周産期脳障害の割合と言う事であれば調査出来ると思います。
- \* 行政機関を使用しないで、医療機関から身体障害者手帳1級・2級の受給者をリストアップして調査を行う事も出来る。
- \* 本年度と来年度の2年継続研究とし、早川委員を主任研究者として案1のテーマの調査・研究を行う。
- \* コロニー中央病院もスタッフ・データ等でサポートします。
- \* 案6「その他」として、地域性もあるかと思われるが半田病院では、若年者の中絶・出産が多くなって来ているので、教育の場での性教育が必要ではないかと思われる。
- \* 資料「健康日本21あいち計画」にも掲載（§43・§46）されていますが、全国的にも多くなってきていて、愛知県でも多くなってきているので、中絶数を減少させるためにも、行政としては、実態数を把握し現在の数値を半減させたいと考え、教育委員会にも話し、医療機関（周産期）にも取り組んで行ってほしい問題であると認識しています。
- \* 次年度の調査・研究事業のテーマとして参考にします。

(4) 平成13年度愛知県周産期医療研修事業について

- \* 研修会は、平成12年度調査・研究事業報告会として開催したいと考えています。
- \* 会場としましては、名古屋駅周辺を予定しています。

- \* 昨年の講演会は、豊橋市民病院が主になり開催しました。
- \* 本年度の講演会として別紙事務局案（案１～案４）を考えました。
- \* その他として何か良い案が有りましたら提案をお願いします。
- \* 事務局案はまだ講師の確認を取っていませんので事務局案からの選択でも講師の都合により、協議会決定テーマの希望に添えない事も有ります。
- \* 昨年は新生児についての講演会でしたが、本年度も新生児についての講演会でも良いのか。
- \* 良いと思います。
- \* 講演会のテーマについては、事務局に一任します。
- \* 各講師に依頼し承諾を頂いたテーマで開催します。

( 5 ) 平成 1 2 年度愛知県周産期医療調査・研究事業の報告

< 愛知県下の新生児外科疾患の実態調査 ( 主任研究者 長屋 昌宏 ) >

- \* 別紙は、5月27日現在の状況です。
- \* 第1次調査として、小児科75施設、産科221施設に調査をお願いしました。
- \* 小児科75施設、産科191施設の回答があり、症例ありとして小児科30施設(226症例)、産科52施設(176症例)ありました。
- \* 4月10日付で、第2次調査票を送付しました。
- \* 5月27日現在、小児科21施設、産科35施設からの回答がありました。
- \* 現在まだ回収中ですが、7月中には集計処理を終了させたいと思っております。

< 愛知県下の胎児・新生児の先天性心疾患の実態調査 ( 続 ) ( 主任研究者 松澤 克治 ) >

- \* 昨年と同様の調査を行いました。(別紙参照)
- \* 症例あり・なしをアンケートし、ケースカードにて調査しました。
- \* 5月31日現在、産科133施設、小児科45施設の回答を得ています。
- \* 合計420例の症例がありました。
- \* 昨年度調査の385症例中の「現在治療中」「観察中」の約290症例についても予後調査中です。
- \* 7月中には集計終了したいと思っております。
- \* 平成11年度の調査では、死亡例はありませんでしたが、平成12年度の調査では合併症もあり死亡例がありました。
- \* 昨年度の調査結果報告で、産科医としては、先天性心疾患児でも生存できる事が確認され大変参考になりました。

< 最近の妊娠・分娩形態の多様化および水中出産の実態調査 ( 主任研究者 戸苺 創、石川 薫 ) >

- \* 別紙「水中出産に関する産科的側面よりの文献」を全訳しましたのでご参照下さい。
- \* 結論としては、水中出産に関して産婦人科的観点から良いとも悪いとも、データの的には決められないと言うことです。
- \* 新生児第一呼吸と水中出産に関する戸苺先生の論文を全訳しました。
- \* 新生児の第一呼吸には酸素との接触及び臍帯血流の途絶が重要であると言われていますが、その意見から酸素との接触が第一呼吸の開始であれば、戸苺先生の考えとしては水中出産において水中での第一呼吸はないのではないかとと思われる。
- \* 愛知県下の分娩取扱220施設と助産所62施設に、水中出産を含む多様な分娩形態についての実態調査を行いました。
- \* 助産所62施設中37施設回答があり、分娩取扱助産所23施設、取扱のない助産所14施設ありました。
- \* 分娩取扱助産所23施設中、水中出産を取り入れていない助産所が15施設あり、分娩総数は258例ありました。また、水中出産を取り入れている助産所が8施設あり、分娩総数は528例ありました。
- \* 平成12年の愛知県での実際の水中出産数は23例ありました。
- \* 病院・医院220施設中121施設の回答があり、分娩取扱なしが12施設、分娩取扱ありが109施設ありました。
- \* 病院・医院での水中出産を取り入れている施設が一つあり、取扱分娩総数は330例ありました。
- \* 病院・医院での水中出産は、第1期の入浴で水中分娩ではありませんでした。
- \* 水中出産を取り扱っていない病院・医院108施設の取扱分娩総数は、36, 126例ありました。

( 6 ) 報告事項

< 健康日本 2 1 あいち計画 >

- \* 別紙 ( 本冊・概要版 ) を参照して下さい。
- \* 目標値に向かって進めて行きます。
- \* 実行は大変ですが、よく読んで参考にして下さい。
- \* 市町村でも計画を立てますので、協力をお願いします。

< 平成 1 2 年度総合周産期母子医療センターの実績報告 >

- \* 別紙「名古屋第一赤十字病院総合周産期母子医療センター平成 1 2 年度総括」を作成しましたので参照下さい。
- \* 愛知県周産期医療協議会で、総括作成するためにも「専門相談報告」のデータ入力をお願いします。

( 7 ) その他

< 医師数の増加について ( 戸荻委員 ) >

- \* すこやか親子 2 1 の提言にもありますが、小児科医師、新生児科医師、産科医師の増加対策について提言したい。
- \* 現在小児科医師、産婦人科医師の希望が減少しているので、解消するために奨学金制度を設けてはどうか検討して欲しい、また、他に良いアイデアがあれば提案して欲しい。
- \* 当協議会での検討、結果を出す事は難しいのではないかな。
- \* 本日は、戸荻委員が欠席ですから、次回出席の時に詳しくお聞きしましょう。

< 次回医療協議会開催について >

- \* 次回平成 1 3 年度第 2 回周産期医療協議会を、平成 1 3 年 1 1 月 3 0 日 ( 金 ) 「あいち小児保健医療総合センター」にて見学を兼ねて開催します。